



小學讀本

田中義廉編
田中芳男閱

六

木 2
5719
2



門 亦 2
號 5719
卷 2



小學讀本卷六

田中芳男

閱

田中義廉

編輯

第一回

博物學ノ第二課ヲ植物學トス此學ハ草木苔菌ノ種類性質ヲ辨識シ兼テ花實葉根等ノ模様ヲ考究スル物ナリ
抑植物ノ學ハ課目數多シ之ヲ明辨スルコト頗ル難シトス然レモ漸テ積テ飽カザレハ終ニ深奥ノ境ニ至ルヲ得ベシ



嘗テ一學生アリ、植物學ヲ學バント欲シ、其甚ダ
 困難ナルニ驚キ、中道ニシテ廢セントス、會一蟻
 ノ、机上ヲ通過スルアリ、學生之ヲ見テ、一塊ノ砂
 糖ヲ取り、之ヲ蟻ノ前頭ニ投ズ、蟻ハ固ヨリ砂糖
 ヲ好ムコト甚ダシト雖モ、倉忽ノ景況ニ畏怖シ、
 敢テ砂糖ヲ喫スルコト無ク、却テ他路ヲ撰テ、通
 過セリ、學生又糖塊ヲ以テ、其前途ニ投ズレハ、蟻
 又驚キテ、他路ニ赴ケリ、○學生ハ、此模様ヲ觀テ、
 別ニ一塊ヲ取り、靜ニ蟻ノ通過ス可キ、道路ノ傍
 ニ置キ、指頭ヲ以テ、徐々ニ蟻ノ前路ヲ塞ギ、漸次

ニ糖塊ニ近カシム、蟻ハ通路ノ遮欄ヲ蒙リ、別路
 ヲ占メテ、通過セントシ、覺エズ糖塊ニ當レリ、是
 ニ至テ、蟻又恐怖ノ態ナク、靜ニ一隅ヲ味ヒ、深ク
 良好ノ食ヲ獲ルヲ悦ビ、其一片ヲ銜上シ、走テ蟻
 城ニ去レリ、既ニシテ群蟻、陸續蟻城ヨリ來リ、頃
 忽ノ間ニ、盡ク糖塊ヲ運搬セリ、○學生、是ニ於テ、
 大ニ感動シ、覺エズ長歎シテ曰ク、蟻若シ初ノ一
 舉ニ驚キ、走テ巢窟ニ去ラバ、終ニ良食ヲ得ルコ
 ト、無カル可シ、學問ノ道モ亦、皆此ノ如シ、殊ニ植
 物學ノ如キ、極テ困難ナリト雖モ、初級ノ時ニ驚

クコト無ク、能ク其志ヲ安クシ、漸ク積テ飽カズ、能ク其業ヲ守リ、勤ヲ樂ミテ怠ルコト無ケレバ、真境ニ達センコト必セリ、我今中道ニシテ、素志ヲ廢セバ、終身植物學ニ通ズルコト無カル可シト、是ヨリ大ニ憤勵シ、日夜勤勉シテ、竟ニ博識ノ人ト爲リシト云フ、○總テ幼年ノ諸生、初ノ課業ニ驚クコト勿レ、已ヲ虚シクシテ、教師ノ導ク所ニ順ヒ、敢テ自ラ畫スルコト無ク、順次ニ級ヲ追フテ、進ムハ、至ラザル者アラズ、且夫レ學問ノ道ハ、心ヲ專ラニスルヨリ、善キハ莫シ、一課ヲ學ブ

ニ方テハ、志ヲ其學課ニ委ネ、曾テ放心スルコト無ケレバ、一業ヲ了スル毎ニ、必ズ困苦ヲ忘レテ、次第ニ易々タルコトヲ、得可キモノナリ

第二回

植物ノ其品類甚ダ多クシテ、八萬餘種ニ下ラズト雖、之ヲ大別シテ、草木、苔、菌ノ四種トス、是皆地球ノ表面ニ生茂シ、恰モ其外被ヲ爲スガ如シ、喬木ハ鬱葱トシテ、森林ニ動キ、軟草ハ綠色ヲ以テ、郊原ヲ被ヒ、灌木、香花ハ山野ニ繁茂シ、苔、蘚、蘆葦ハ藪澤ニ長育ス、地球上、一般ニ在ラザル所ナ

シ、河沼、海中ニ於ケルモ、亦繁殖スルコト陸地ノ如シ。總テ植物ハ、生命アリテ生育ノ機能ノ備ヘ、又滋養物ヲ吸取スルノ器械アリテ、以テ枝葉莖幹ヲ養ヒ、花ヲ開キ、實ノ結ビ、種子ヲ遣シテ生々孳殖スルノ性アリ。草木ノ生長スルハ、各種皆其性ニ從テ差異アリ、竹類

植物界ノ圖



ハ一歳ニ數丈ヲ長ジ、蕪鉄ノ類ハ、終年ノ生長僅ニ寸許ニ過キズ、殊ニ大小形狀ノ異ナルニ至テハ、驚愕ス。可キモノ少ナカラズ、彼舊草屋ニ生ズル苔類ハ、亦花ヲ開キ、實ヲ結ブコト大樹ニ於ケルガ如シト雖、微細ニシテ、分明ニ辨知シ難シ。印度地方ニ産スル榕樹ノ如キハ、初メ一幹ヲ生シ、長育スルニ從ヒ、枝條ヨリ根ヲ生ジ、直下ニシテ、地ニ入り、支柱ノ狀ヲ爲ス、

榕樹ノ圖

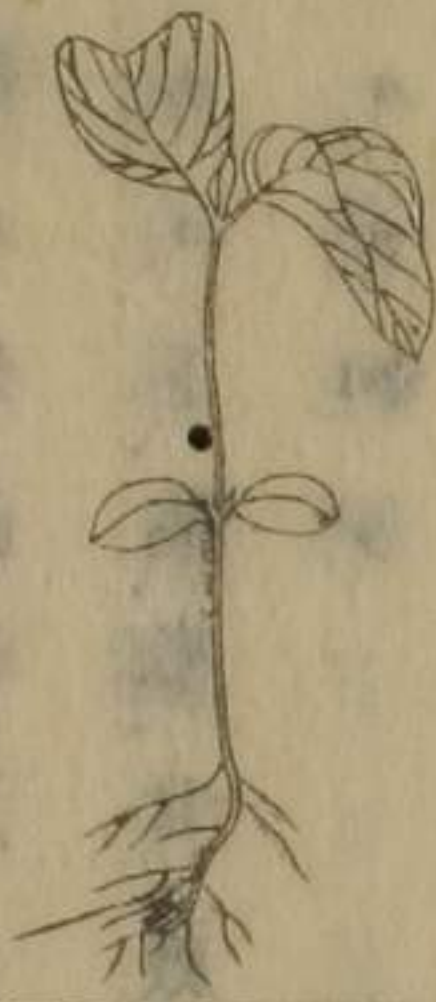


其數百千年、經テ、最大ノモノニ至テハ、幹ノ直徑、三丈ニ過キ、其高三十丈ニ及ブ、周圍ノ支柱ハ三千ニ踰エ、枝條ノ蔓延スルコト、凡ソ八百五十歩アリト云フ

植物ノ種子ハ皆各異ノ性アリテ、以テ其區別ヲ爲ス、喩ヘ、蠶豆、豌豆ノ種子ハ容易ニ二分ス可ク、稻麥ノ種子ハ一塊ナルカ如シ

豆類ノ如キ、二分ス可キ種子ヨリ生ズルモノハ、初メニ二片ノ甲拆ヲ生ジ、其中央ヨリ、嫩幹ヲ描出シ、次第ニ葉ヲ生ズ、之ヲ雙子葉ト云フ總テ各

豆ノ甲拆



米ノ甲拆



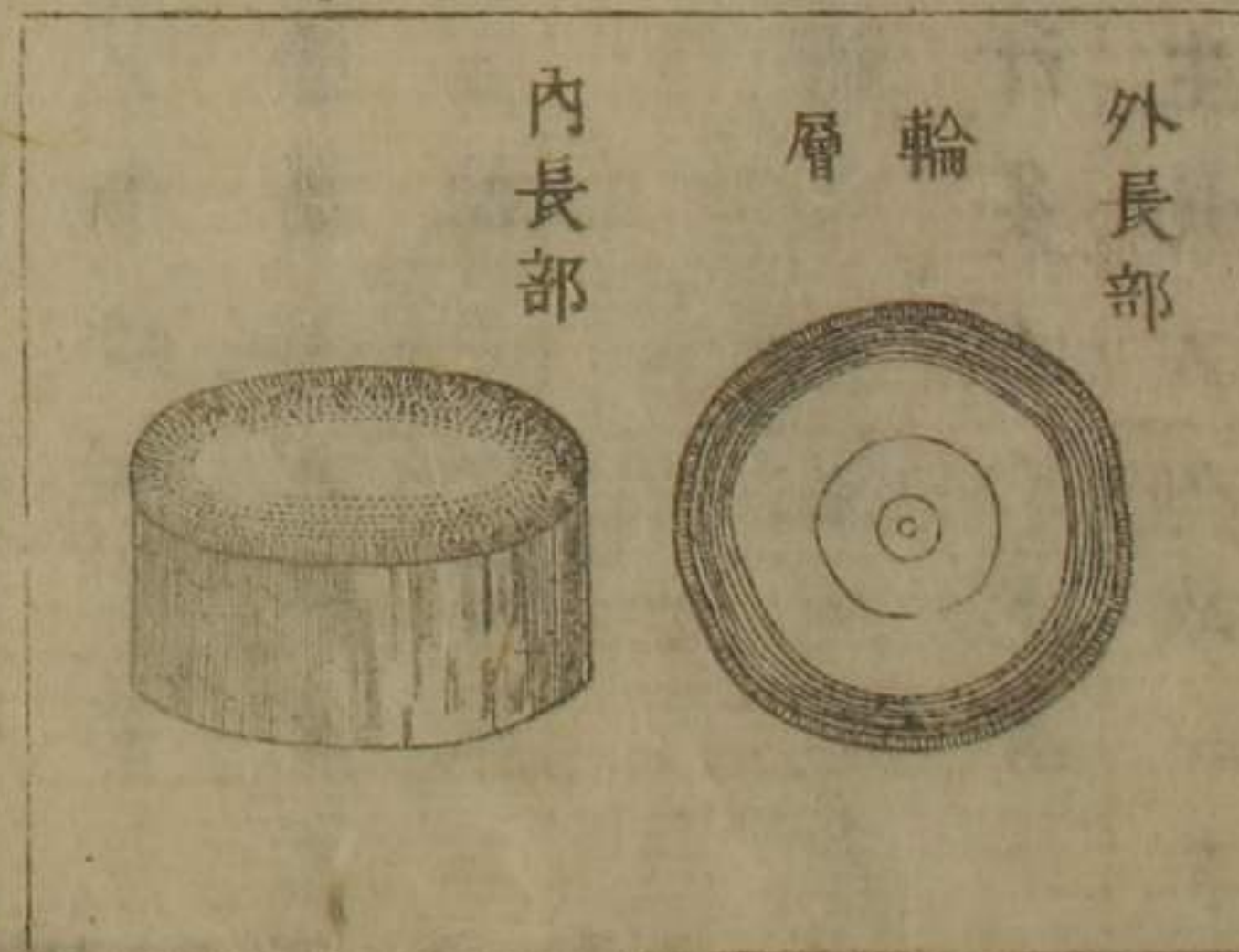
皆此類ナリ

雙子葉ノ草木ハ、外面ニ於テ生長スル故ニ、外長ノモノト云フ、此種ノ外部ハ、液汁多クシテ柔カナリ、殊ニ樹木ハ、年毎ニ外部ニ生長スル故ニ、其

種ノ樹木ハ、皆此類ナリ

一塊ノ種子ヨリ生ズルモノハ、初メ一葉ヲ生ジ、柔カナル外被アリ、葉ノ中心ヨリ、莖ヲ生ズ、之ヲ單子葉ト云フ、米、麥、櫻欄、椰子及ヒ總テノ禾本ハ

幹ヲ横截シテ、輪層ヲ見レバ、年
 數ヲ知ル可シ、又養分ハ全ク外
 面ニ於テ資ル故ニ、内部ハ腐朽
 スト雖モ、生育ニ妨ケナシ
 單子葉ノ草木ハ内部ニ於テ生
 長スル故ニ、内長ノモノト云フ、
 此類ハ外面乾涸シテ、甚ク堅硬
 ナルコト、稻、麥、甘蔗、椶櫚、椰子
 其他永木ノ莖ニ於
 ケルガ如シ



植物學ニ於テ、此一階ヲ學ビ了スレバ、又花、葉、莖、

根等ノ性質、功用ヲ辨明ス可シ

第三回

植物ノ花ハ、種子ヲ結ビテ、草木ヲ孳殖スル爲ニ
 發生スルモノニシテ、瓣、萼、雌雄蕊、子房ヨリ成ル
 各其種類ニ從テ、大小員數ヲ異ニス

桃ノ花



花ハ、皆其形狀ニ由テ、之ヲ區別ス、今
 其最ナルモノヲ九種トス
 第一、又、盆狀トス、其筒、圓長ニシテ、邊
 縁ノ短キモノヲ云フ、紫茉莉ノ類ナ
 リ

第二ヲ輻狀トス其筒短クシテ邊緣分裂シ車輻ノ狀ニ開發スルモノヲ云フ、梅桃ノ類ナリ

第三ヲ漏斗狀トス其筒ハ上邊緣ニ至ルニ從ヒ、次第ニ増大トナリ、恰モ漏斗ノ如キヲ云フ、烟草ノ類ナリ

第四ヲ鐘狀トス其形鐘ノ如キヲ云フ、桔梗、紫宮花ノ類ナリ



第五ヲ十字形トス其花瓣十字形ニ分裂スルモノヲ云フ、蘿蔔、芥子ノ類ナリ

第六ヲ石竹形、又筒狀トス其花形筒ノ如クニシテ邊緣數多ニ分裂スルモノヲ云フ、石竹花、瞿麥ノ類ナリ

第七ヲ百合形トス其邊緣六瓣ニ分裂スルモノヲ云フ、卷丹ノ類ナリ

第八ヲ唇形トス其形恰モ兩邊ノ唇ヲ合セタルカ如キヲ云フ、紫蘂ノ類ナリ

第九ヲ蛾形トス其形ハ蝴蝶ノ翅ヲ張リタルガ
 如キヲ云フ豆、豌豆ノ類ナリ
 此九種ヲ單花ノ形ト云フ是尋常ノ區別ナリ此
 他復花ノ形ヲ以テ區別スルモノ七種アリ
 第一ヲ小頭花トス此類ハ細小ノ花數多集合シ
 テ一個ヲ爲スモノナリ卽蒲公英、薊花ノ類ナリ
 此花ハ一莖ノ上ニ開キ恰モ一輪ノ如シト雖
 之ヲ分テハ一瓣各一花ナリ故ニ一輪ノ中數多
 ノ種子ヲ生ズ
 第二ヲ傘形花トス其花莖總テ一處ヨリ出デ、

恰モ傘ノ繖骨ノ如キヲ云フ
 櫻桃ノ類ナリ又各繖骨ノ上
 ヨリ一ノ傘ヲ生ズルモノア
 リ之ヲ復傘花ト云フ茴香、胡
 蘿蔔ノ類ナリ
 第三ヲ穗狀花ト云フ其花莖
 ハ卽幹軸ニシテ其周邊ニ花
 ヲ攢ルモノヲ云フ車前花ノ
 類ナリ
 第四ヲ總狀花トス其花ハ幹



軸ニ著キ、互ニ密接スルモノヲ云フ、紫藤ノ類ナ
 リ
 第五ヲ、傘房花トス、是亦總狀花ニ類似シテ、花頭
 總テ平面ニ開クモノヲ云フ、烏蕨母花ノ類ナリ、
 第六ヲ、葦荑花トス、此花ハ莖ノ周圍ニ密附シ、恰
 モ走獸ノ尾ノ如ク、一個ニ見ユルヲ云フ、楊柳、榛
 ノ類ナリ
 第七ヲ、聚傘花トス、是亦傘形花ノ幹軸ニ、近ク集
 リタルモノヲ云フ、其集合ノ疎密ハ各等シカラ
 ズ、繡線菊ノ類ナリ

花ノ形状種々ナルガ如ク、其色モ亦種々ナリ、然
 ルニ花ヲ作爲スル液汁ハ、根ヨリ吸收シ、以テ各
 色ヲ染成スト雖、其液汁ハ、黃、紅等ノ別ナク、皆
 同シク無色ナリ、日光、大氣ハ、色ヲ生ズルヲ助ク
 ト雖、其色ヲ製作スル者ニアラス、然レバ無色ノ
 液汁ヲ以テ、各異ノ色ヲ生シ、盡ク艶美ヲ極ムル
 ハ、亦造化ノ靈妙ニシテ、恰モ人ノ白痴ナルモ、刻
 苦勤學スレバ、秀才ノ美ヲ爲スガ如シ、故ニ人々
 花ノ艶麗ヲ見、亦其身ヲ芳名アラントトヲ希
 圖セサル可ラス

小學讀本 卷之六 九 備 纂 書 屋

第四回

花ハ天地ノ美觀ナリ、古人之ヲ地球ノ笑顔ト謂
ハリ、凡百ノ花卉、濃淡、大小、互ニ異ナリト雖也、各
其美ヲ盡クサハ、無シ、殊ニ薔薇、櫻桃、牡丹ノ
如キニ至テハ、其艷麗ナルコト、人工ノ及ブ所ニ
アラズ、實ニ造化ノ功用ノ妙ヲ觀ルニ足ル、春晚ノ
輕暖ニハ、好鳥ノ留ルアリ、艷聲ヲ弄シテ、歌吹ヲ
奏シ、夏季ノ微暈ニハ、蝶蜂ノ眠ルアリ、紗翅ヲ撫
シテ、光華ヲ競フ、且夫レ習風枝ヲ搖カシテ、芳香
ハヲ襲ヒ、赫日辨ヲ照ラシテ、射映錦ヲ晒ス、凡ノ

千象萬形、吾人ノ資テ心目ヲ悅バシムルハ、皆造
物ノ恩惠ニシテ、之ヲ人民ニ賦與セルモノナリ、
嗚呼、人々、幼ニシテ學ヒ、長ジテ行キ、其身獨立ス
ルヲ得テ、時々庭園ニ緩歩シ、百花ノ爛熳タルヲ
見ルハ、實ニ無極ノ樂ナラズヤ、宜シク黽勉、努力
シテ、後年ノ歡樂ヲ希望ス可シ、若シ誤テ、怠惰、縱
肆ノ者トナリ、陋室ノ中ニ屈居シ、或ハ終身人ニ
役セラル、ニ至テハ、縱令ヒ芳草、艷花ノ間ニ到
ルモ、愉快ヲ覺ユルコト無シ
○一婦人ノ性來、花ヲ愛スルアリ、孫兒ト共ニ花

是書本 卷之六 十 尚 實 書 屋

園ヲ耘耨シ、意ヲ注イテ培養セリ、夏季ノ既ニ
闌ナルニ至リ、百花爛燦トシテ、各艷色ヲ呈セ
ザルハナシ、婦人日々愛養シテ、晷ノ移ルヲ知
ラズ、○一日兒ト共ニ、他ニ出デントス、仍テ園
丁ヲ戒テ曰ク、汝曾テ花園ノ培養ヲ怠ルコト
無ク、我歸來スルニ至テ、其修整ヲ全クス可シ
ト、竟ニ家ヲ去ル、或日兇暴ノ風アリ、此園ニ來
リ、花草ノ修整セルヲ見テ、私ニ謂フ、此花園ヲ
荒亂スルハ、愉快ナル嬉戲ナリト、仍テ其匪計
ヲ行フ可キ術ヲ考ヘ、腰ヲ屈シ、辭ヲ卑クシ、花

弁ニ向テ曰ク、諸君何故ニ此束縛ヲ受クルヤ、
斯ク煩苦ヲ受ケ、甘シシテ忍耐スルハ、奇ナリ
ト謂フ、可シ、我私ニ諸君ノ天性ニ悖リ、生長ヲ
妨クルヲ嘆ズ、故ニ今來テ、我赤心ヲ告グ、請フ
諸君モ、亦其意ヲ語レト、牽牛花ハ竿ニ倚リ、石
竹、瓶裏ニ坐シ、薔薇ハ垣ヲ擁シ、各風ニ問テ
曰ク、吾曹ノ生長、何故ニ天性ニ逆フヤ、日々ニ
園丁ヲ培養ヲ受ケ、自在ニ生長ス、我曹花ノ大
ナル、色ノ美ナル、實ニ田野ノ物ニ優レリ、若シ
一日ニ園丁ノ培養ヲ欠クトキハ、疲瘦スルコ

ト、田野ノモノ、如クナラント、風冷笑シテ曰ク、然ラズ、我田野ノモノヲ見ルニ、此ノ如キ拘束ヲ受クル者アラズ、或ハ地ニ走り、或ハ左右シ、或ハ直、或ハ曲、動作總テ意ノ如クナラザルハ無シ、然ルニ、此花園ニ生育スルモノハ、一モ園丁ノ苛虐ヲ免レズ、直ナラント欲スレバ、之ヲ曲ゲ、横ハラント欲スレバ、之ヲ豎ニス、是生長ノ天性ニ逆フニ非ズヤ、加之兄等ノ枝葉、少シク繁茂スレバ、園丁直ニ葉ヲ苛リ、莖ヲ縛シ、曾テ生長ヲ遂ケシメズ、固ヨリ兄等ノ艶麗ナ

ルニ比スレバ、尙少シノ自由ヲ得ベキニ、斯ル苛刻ヲ蒙マルハ、誠ニ大ナル耻辱ナリ、我私ニ兄等ノ爲ニ之ヲ憐ムト、諸花、稍風ノ説ヲ信ジテ曰ク、此事實ニ、残忍ナリト謂フ可シ、我曹又園丁ノ苛虐ヲ受クルヲ欲セズト、風又黃楊樹ニ向テ、其枝頭ヲ芟除セラル、ヲ嘲笑シテ曰ク、兄何ノ罪惡アル、僅ニ枝葉ヲ伸ブレバ、忽チ剪除セラレ、數年ノ間、一寸ノ大ナルヲ得ズ、桎梏ノ甚シキ、顧フニ之ヨリ苛ナルハ無シ、兄獨リ其畸形ニ耻チズヤト、更ニ園中ヲ逍遙シ、妄

ニ東縛ヲ受クルヲ嘲リ、且傲言シテ曰ク、我世上ヲ觀ルニ、未ダ此花園ノ如キ、極虐ノ拘束ヲ受クルヲ聞カズト○此時ニ至リ、諸花齊シク歎ジテ曰ク、我曹深く、此刻虐ヲ受クルヲ耻ヅ、然レモ自ラ之ヲ脱スルノ力無シ、兄幸ニ我曹ヲ助ケテ、縲紲ノ難ヲ免レシム、以テ再ヒ自由ノ態ヲ得ルコトアラバ、畢生隆恩ヲ忘レズ、請フ此災厄ヲ救ヘト風ハ竊ニ謀計ノ成ルヲ喜テ曰ク、我能ク力ヲ盡クシテ、諸君ノ獨立ヲ助ク可シト、乃チ相約シテ去ル

爾夜更、闌ニシテ東方、將ニ明クナントス、忽チ山林颯トシテ聲アリ、俄頃雲起テ、一天墨ヲ流ガスガ、如シ、此時風ハ劇然トシテ、花園ヲ旋回シ、東ヲ衝キ、西ニ當リ、枕ヲ倒シ、條ヲ斷チ、莖幹ヲ顛倒シ、花葉ヲ蹂躪シテ、暴動殘ス所ナシ、旣ニシテ大雨、驟ニ降り、泥ヲ流シ、塵ヲ漂ハシ、園中ヲ汚濁ス、終ニ艶々タル花園モ、一日ノ中、變ジテ亂離タル荊蕀場トナリ、百花地ニ伏シ、坭ニ塗レ、將ニ局死セントス、因テ悲歎シテ曰ク、我曹、風ノ欺罔ヲ蒙リ、誤テ自由ノ態ヲ得ンコ

トヲ欲シ、終ニ此災厄ヲ致セリ、今ニ至リ再ビ
 杭ニ登ラント欲スルモ、亦得ベカラズト
 園丁ハ、此日田ニ在リ、薄暮家ニ歸リ、花園ノ亂
 雜ヲ見ルニ、荒敗既ニ甚クシテ、輒チ術ノ
 施ス可キナシ、數日ニシテ園中、洽ク雜草ヲ生
 ジ、花草盡ク其抑壓スル所トナリ、曠野ノ茫漠
 タルニ異ナラズ、○既ニシテ、婦人ハ孫兒ト共
 ニ家ニ歸リ、花園ノ荒蕪ヲ驚嘆シ、孫兒ハ意外
 ノ景況ヲ悲ニ、涕泣錯ク所ヲ知ラズト
 是ニ於テ、婦人ハ孫兒ヲ論シテ曰ク、阿兒若ク

悲ハ、フト勿レ、此荒蕪セル花園ハ、亦一人鑑戒
 ト爲ス可キナリ、我平日、養育拘束ノ二事ハ、花
 草ノミナラズ、人生ニ於テモ、緊要ノ事ナリト
 謂ヘリ、今現ニ其例ヲ見ル、實ニ花草ハ風ノ力
 ヲ籍テ、其拘束ヲ脱シ、一旦自由ヲ得ルニ似タ
 リト雖、凡、忽チ雜草ノ抑壓ヲ蒙リ、其芳艶ヲ失
 ヒ、且水土モ之ガ爲ニ奪去セラレテ、自ラ給ス
 ルニ足ラズ、見ルベシ、其體ノ疲瘦セルコト、前
 日ノ比ニ非ズ、必竟餓死シテ、天命ヲ終ルコト、
 能ハザラズト

十四 端 實 書 屋

抑、世上自主自由ノ權アルヲ、主張セル説アリ、
 是皆紀律ヲ守ルノ人ニ於ケルノミ、夫ノ文明
 諸國ニ於テハ、公道日ニ明ニ、交際月ニ厚シ、此
 ハ如キニ至テハ、人々幼ヨリ紀律ノ束縛ヲ被
 リ、識ラズ、知ラズ、身ハ經典ノ中ニ生長スルヲ
 以テ、一舉一動、規則ノ外ニ出ヅルコト無シ、其
 學ニ志ス者ハ、博識ニ至リ、藝ヲ習フ者ハ、精巧
 ヲ極ム、一身ノ獨立セザル無ク、一家ノ齊ハザ
 ルハ無シ、且平生、規則ノ中ニ住スルヲ以テ尊
 貴ヒ人ニ驕ルコト能ハズ、富豪モ妄ニ財ヲ散

ズルコト無シ、是ニ至テ君父ノ束縛セ用ウル
 所有ラズ、之ヲ自由ノ權ト云フ、然レモ半開或
 ハ未開ノ國ニ在テハ、人民幼ヨリ、磊落ニ生長
 シ、妄行、度無ク、禮讓ニ乏シ、是ニ於テ其不羈ヲ
 束縛センガ爲ニ、師父アリ、政府アリ、文教ヲ諭
 シテ之ヲ善ニ導キ、以テ其身ノ獨立ヲ謀リ、憲
 章ヲ審カニシテ、其惡ヲ懲ラシ、預メ刑典ニ陷
 ランコトヲ防グ、此故ニ君父ノ束縛ハ、少年ノ
 爲ニ至重ノ要具ナリ、幼ヨリ規則ノ束縛ヲ甘
 シシ事々、師父ノ教ニ順ヒ、曾テ自由ノ念ヲ出

ダスコト無クンベ可ナリ
 然ルニ少年ノ輩、少シク藝術ヲ得レバ、夙ニ師
 父ノ嚴ナルヲ厭ヒ、言ヲ文明ノ國ニ托シ、自主
 ノ説ヲ唱フル者アリ、此時ニ方リ、又縱肆ノ徒
 來テ、其心ヲ挑唆スルトキハ、直ニ其説ニ眩惑
 セラレ、師父ノ訓誡ヲ聽カズ、頓ニ羈轡ヲ脱セ
 ンコトヲ謀ルニ至ル、一ニ魔風ノ來テ花草ヲ
 誘惑スルガ如シ、必竟此等ノ輩ハ、規律ノ外ニ
 出テ、以テ遊惰、放逸ヲ肆ニセント欲スルノミ、
 此ノ如キハ、一旦自由ノ態ヲ得ルモ、忽チ零落

沈没シテ其身ヲ衰廢ヲ免レザルコト恰モ此
 花園ノ荒蕪セルニ異ナルコト無シ

第五回

草木ノ菓實ハ、花彙ノ製作スルモノナリ、花瓣落
 飛スル後、雌蕊ノ下部ニ、アフル子房ハ、漸々長大シ
 テ、各種ノ形狀ヲ爲シ、中ニ種子ヲ包有ス、
 菓實ニ數様アリ、其肉ノ直ニ動物ノ食トナリ、自
 ラ美味ヲ備ノルモノアリ、梨子、林檎、蜜柑、葡萄ノ
 類ナリ、其核仁ヲ食用トスルモノアリ、栗子、胡桃
 米、麥ノ類ナリ、殊ニ穀物ノ類ハ、其菓實ニシテ只

種子ノミナルカ如シ、其他棉實ハ紡織ス可ク、甚
 臺ハ油ヲ製ス可キ、等總テ人生ノ用ニ供スルコ
 ト、甚ダ多シ
 菓實、種子ハ、動物日用ニ欠ク可ラザルモノニシ
 テ、且其孩仁ハ、生機ヲ保有シ、生々孳殖スルノ性
 アリ、必ず其時ヲ得レバ、發芽長育
 ス、總テ種子地中ニ入り、濕氣ヲ得
 ルトキハ、次第ニ澎脹シテ、外被ヲ
 破リ、根芽並生ズ、其根ハ細鬚狀ヲ
 爲シ、地下ニ向ヒ、芽必ズ地上



ニ發ス
 乾燥シタル種子ハ、殆ト死スルガ如シト雖モ、其
 中ニ存スル生機ハ、曾テ感スルコトナシ、若シ之
 ヲ地中ニ埋メ、濕氣ト適宜ノ熱ヲ得ルトキハ、中
 心ハ生機發動シ、其外被ヲ破ルニ至テ根芽ヲ生
 ビザルハ無シ、種子ノ生命ハ、通例一二歳ナリト
 雖モ、稀ニハ數百年ヲ保續スルモノアリ、曾テ以
 太利國ノ邦貝ハ、千八百年前、火山ノ噴出ニ由テ
 埋没シ、全府數百世ノ間、地下ニ在リ、近世之ヲ鑿
 テ、家屋ノ有ル所ヲ得タリ、中ニ種子アリ、取テ之

學讀本
 卷之六
 十七
 編

ヲ種ウルニ發芽スルコト、一二年間、貯蓄セルモ
 如シト云フ、是ニ由レバ種子ノ性命稍久時
 ニ堪フルモノアルヲ知ル
 種子ハ、地ニ落チテ、其所ニ止マルアリ、或ハ河水
 爲ニ流去セラレテ、遠地ニ至ルアリ、稀ニハ動
 物ノ毛中ニ附テ、各所ニ散布スルアリ、又風ニ飄
 テ容易ニ飛散スルアリ、槭子ノ如キ
 ハ二翼ヲ具シ、松子ハ一翼ヲ具ス、共
 ニ飛揚スルニ便ナリ、蒲公英ノ種子
 ハ、白ニ絨毛アリテ、風ニ乘シ、輕飛ス



ル、此ノ氣球ノ如シ、是皆造化ノ妙用ニシテ、各地
 ニ繁殖セシメ、爲ナリ
 夫レ一粒ノ種子ヲ種ウレバ、多量ノ種子ヲ得ベ
 ク、微細ノ種子モ、最大ノ草木ヲ得ベシ、恰モ人ノ
 小善ヲ行ヒ、積テ大ナル幸福ヲ得ルガ如シ、一粒
 ト云フル、種エザレバ、植物ヲ得ズ、小事ト云フル
 務ヲガレバ、功ヲ成サズ、且夫レ種子ノ發生セル
 ハ宛然トシテ、其之ヲ結ビシ草木ニ異ナルコト
 無シ、穀物ノ種子ハ、穀草ヲ生ジ、荆棘ノ種子ハ、荆
 棘ヲ生ズ、各其果ニ因テ、良否ノ報アリ、人ノ行ノ

善不善ナルモ之ト同ジ、應報ノ理ニ至テハ、譬ヘ
 バ、今日ノ行ハ、猶種子ヲ種ウルガ如ク、來日ノ報
 ハ、猶草木ヲ得ルガ如シ、善根ヲ播セバ必ズ善樹
 ヲ生ジ、惡樹ヲ種ウレバ、必ズ惡果ヲ結ブ、人々宜
 シク、誠心慎獨シテ以テ來日ノ果報ヲ畏懼セル
 ビケンヤ

第六回

草木ノ葉ハ、亦花ニ亞テ、美觀ヲ呈ス、色ニ濃淡アリ、形ニ大小アリト雖、凡皆人目ヲ悅バシメザルハ無シ、且夫レ、芳春ノ嫩葉ハ、雨ニ濕セラ、澹烟ヲ

籠マ、盛夏ノ緑陰ハ、風ニ飄テ、白日ヲ動カス、秋晚ノ霜葉碎錦山ニ滿チ、冬季ノ落水、群鴉林ノ離ル、四時ノ變化、總テ好景ヲ現ハス、若シ終年葉無キトモハ、大ニ風光ヲ欠クベシ、葉ノ鮮美ナルハ、功用ノ一ニシテ、亦造化ノ人類ニ與ヘ、神思ヲ爽快ニセシムルモノナリ

葉ハ莖ヨリ分出シテ、通例葉柄ト葉片ヨリ成ル、稀ニ葉托ヲ具スル者アリ、梨葉ノ類ナリ、又葉柄ナキモノアリ、之ヲ無柄葉ト



云フ、油点草ノ類ナリ
 花ニ種々ノ形狀アルガ如ク、葉モ亦、各異ノ形狀アリ、今之ニ從テ、其品類ヲ七種ニ分ツ

第一ヲ、網狀葉トス、葉裏ノ細管數様ニ分岐シ、恰モ網ノ如キヲ云フ、葡萄、櫻等ノ類ナリ

第二ヲ、平行葉トス、其管相並ビテ、直行スルモノヲ云フ、粟葉ノ類ナリ

第三ヲ、單葉トス、此類ハ葉面缺



裂ノ有無ヲ問ハズ、一葉毎ニ、一莖ノ葉柄アルモノヲ云フ、楊、柳、槭ノ類ナリ

第四ヲ、復葉トス、一ノ葉柄ヨリ、數葉ヲ生ズルモノヲ云フ、紫藤、豌豆ノ類ナリ

第五ヲ、對生葉トス、一莖ノ兩邊ニ、二葉ノ相對シテ、生出スルモノヲ云フ、溲疏ノ類ナリ

第六ヲ、互生葉トス、等シキ平面



ニ生ゼズシテ、參互ニ、生出スルモノヲ云フ、梅、山
查ノ類ナリ

第七ヲ車輪葉トス、莖ノ周圍ニ、二葉以上相對シ
テ生出シ、輻狀ヲ爲スヲ云フ、猪殃々ノ類ナリ

此他、生出ノ位置ニ關セズ、唯其形狀ニ從テ、三種
ノ區別アリ、今著シキ物ヲ、舉ゲテ其例トス

第一、葉面ノ形ニ從テ、分ツモノナリ、即チ蓮葉ハ
葉ノ中央ニ、葉柄アリテ、形

笠ニ似タルヲ以テ、笠形ト云フ、
名ツク、又七葉樹ハ、其葉人



笠形
掌狀
蓮
七葉樹

手ヲ開クガ如キ故ニ之ヲ掌狀ト云フノ類ナリ、

第二、葉ノ周圍ノ形ヲ以テ、分ツモ
ノナリ、即チ地榆ノ葉ハ、周邊鋸齒

ノ狀ヲ爲ス、故ニ之ヲ鋸齒葉ト云
フ、又泉耳ノ葉ハ、其周邊ニ缺裂ア

ル故ニ之ヲ缺刻葉ト云フノ類ナ
リ

第三、葉ノ尖頭ノ形ヲ以テ、分ツモ
ノナリ、即チ麵楯ノ葉ハ、其頭銳ク



鈍頭 酸模
銳頭 麵楯
缺刻葉 泉耳
鋸齒葉 地榆

酸模ノ葉ハ其頭銳尖ナラザル故ニ之ヲ鈍頭ト云フノ類ナリ

第七回

草木ノ葉ハ、皆美飾ヲ現ハスノミナラズ、鬱葱タル緑陰ハ、夏日ノ炎熱ヲ消シ、原野ノ青草ハ、牧畜ヲ養フコト少ナカラズ、且適宜ノ蔭影ハ、菓物ノ爲ニ欠ク可ラズトス、若シ日光常ニ菓物ヲ直射スルトキハ、之ヲシテ偏固ナラシム、十分ノ成熟ヲ妨障ス、故ニ葉蔭ハ稍菓物ヲ保護スルモノナリ

植物ノ葉アルハ、猶人ノ肺臟アルカ如ク、常ニ空氣ヲ呼吸シテ其養分ヲ資リ、枝幹ヲ養ヒ、之ヲシテ繁茂セシム、故ニ草木ノ葉ヲ盡ク剪除スルトキハ、枝幹モ從テ凋衰ス可シ、總テ葉ハ表裏共ニ微細ノ小孔アリ、其裏面ヨリ空氣ヲ吸ヒ、之ヲ全體ニ傳ヘ、又表面ヨリ水分ヲ吐出ス、草木ノ葉ノ排泄スル水分ハ、大氣ト混スルヲ以テ、見ル可ラズト雖、日夜間斷無ク吐出シテ氣中ニ充満ス、若シ生葉ヲ摘ミ之ヲ、玻璃瓶ノ中ニ置クトキハ、暫時ニシテ瓶ノ裏面ニ、水滴ヲ見ル、是葉ノ

排世スル水液ナリ
 錫蘭嶋ニ一種ノ異草アリ、之ヲ猪籠草ト云フ、此
 草ヲ見レバ現ニ濕氣ノ排泄スルアルヲ見ル可
 シ、其葉ハ生薑ノ如クニシテ、平滑ナリ、葉ノ尖頭
 ヨリ、屈曲シタル數寸ノ蔓ヲ生シ、其端末ニ壺ノ
 如囊ヲ懸ク、囊上ニ蓋アリテ、密閉
 シ、雨水ノ入ルヲ防ク、囊中常ニ水
 ヲ貯テ、獼猴ハ時々、此蓋ヲ開キ、囊
 中ノ水ヲ飲啜スル故ニ、之ヲ又、獼
 猴杯ト云フ、其水ハ他ヨリ、適入ス



猪籠草

ルニ非ス、囊ノ内面ナル無數ノ細孔ヨリ、不斷濕
 氣ヲ排泄シ、積テ囊中ニ滿ツルモノナリ
 此ノ如ク、葉ノ絶エズ、水分ヲ呼出スルハ亦一ノ
 功用ナリ、若シ炎熱ノ日ニ方リ、葉ノ濕氣ヲ吐出
 スル無ケレバ、大氣乾燥シテ、動物ニ害アリ、故ニ
 盛夏、砂地ヲ過クレバ、濕氣ノ熱力ヲ減ズル無キ
 ヲ以テ、甚ダ鬱悶ヲ覺ユ
 葉ノ濕氣ヲ排泄スルハ、微量ナリト雖モ、日夜休
 ムコト無ク、呼出スルヲ以テ、大ニ大氣ヲ和ク、人
 身ニ宜シカラシハ、是一ニ短才魯鈍ノ者モ日夜

勤學シテ碩學ノ人ト爲ルカ如シ、故ニ人々能ク
葉ノ排泄ニ働ヒ、小善ト雖、其廢スルコト勿レ微
ヲ積テ倦ムコト無ク、至大ノ美事ヲ致サシコト
ヲ庶幾ス可シ、小惡ト雖、其犯スルコト勿レ當時人
目ニ觸レザルモ積テ止マザレバ、誰カ之ヲ知ラ
ザラン

第八回

植物ノ食物ハ、水ト空氣ノ二種ヲ首トシ、猶其中
ニ溶解セル種々ノ物質ヲ以テ長茂ヲ資ク、其葉
ハ空氣及ヒ水分ヲ吸収シ、枝幹ヲ養ヒ、根ハ地

中ヨリ液汁ヲ引攝シテ全體ヲ滋養ス、故ニ草木
ノ根アルハ、猶人ノ胃腑アルカ如シ、草木若シ根
ヲ失フト、キハ忽チ凋枯スルコト、人ノ胃腑ヲ傷
スルガ如シ
總テ植物ノ固形部ハ、炭氣ヲ以テ組成スル故ニ
草木ヲ燒ケバ必ズ炭ヲ生ズ、是ヲ以テ植物第一
ノ養品ハ、炭酸氣ナリ、其他水氣、窒氣ノ類モ、亦培
養ヲ助クル者トス
抑炭酸氣ハ、動物ノ生活ニ、有害ナカモノト雖、
草木ノ生育ニ、最要用ノモノトス、此氣ハ動物ノ

呼吸ヨリ生ジ、或ハ植物ノ燃燼シ、又腐敗スルヨ
リ生ズ、總テ草木ハ葉根ヨリ此氣ヲ吸收シ、自然
ノ活力ヲ以テ、此ヲ分拆シ、其炭氣ヲ取テ、幹枝ヲ
養ヒ、酸氣ヲ又大氣中ニ放散ス、酸氣既ニ植物ヲ
離ルレハ、動物之ヲ吸收シテ炭酸ヲ變シ、又之ヲ
植物ニ與フ、
此ノ如ク、植物ハ動物ト養品ヲ交換シテ、互ニ繁
殖ス、然レ、極寒地ニ在テ、冬季ニ至レハ、常緑木ノ
外、悉ク落葉シ、根モ亦眠ルガ如ク、動物ト交換ノ
道、絶ス、此時ニ至レバ、大氣速ニ流動シテ、南方諸

洲ノ草木ト交易ス、動物ノ肺ヨリ出タル炭酸氣
ハ、南方ニ至リ、植物ニ吸收セラレ、其吐出シタル
酸氣ハ、四方ニ排張シテ、又動物ノ肺中ニ入ル、是
ニ於テ、動物ハ不斷呼吸シ、植物ハ冬季凋落スト
雖、曾テ過不及アルコト無シ、
此等ノ諸氣ヲ有機關素ト云フ、是植物ノ生活ニ
欠ク可ヲザルモノナリ、其他礦屬土類ノ如キ、無
機關素ヲ資テ、長茂ヲ助クルモノアリ之ヲ概ス
ルニ、馬鈴薯ノ類ハ、滷鹽質ノ植物トス、豌豆ノ類
ハ、石灰質ノ植物トス、米麥ノ類ハ、磷質ノモノナ

リ、水ノ類ハ、火石質ノモノナリ、是等ハ多少此
物質ヲ含ムニ從テ、其類ヲ區分ス、殊ニ鋼鉄ト抵
觸シテ、火ヲ發スル者ハ、水汁ニ溶和セル火石ヲ
含ムコト多ク、水財ヲ琢磨スルニ用ウルモノハ、
葉面ニ砂石ヲ含ムコト多キモノトス
根ノ吸収スル液汁ハ、草木ノ各種ニ從テ、一樣ナ
ラズ、假令ヘバ蕃椒ハ辛味ヲ製ス可キ液汁ヲ吸
收ス、葡萄ハ甘味ヲ製ス可キ液汁ヲ吸収スルガ
如シ、斯ク蕃椒、葡萄ハ辛甘ノ差アリト雖ル、同地
質ニ在テ、同時ニ生長シ、各稟性ニ適シタル物質

ヲ引攝シ、曾テ誤ルコト無ク之ヲ人ノ食物ヲ撰
グニ比スレバ、優レリトス、人ハ屢食物ヲ誤
用シテ、疾病ヲ生スルコトアリ、蓋シ草木ノ能ク
適宜ナル食品ヲ撰ムハ、亦造化ノ妙用ニシテ、人
得テ其理ヲ窮ム可ラズ、然レ居人ハ常ニ植物ノ
性ヲ考ヘ、適用ノ食品ヲ附與シ、繁殖ノ功ヲ助ク、
實ニ人智ノ熟達ト謂フ可シ、然ルニ人各草木ノ
攝養ヲ知テ、其身ノ保攝ヲ知ラズ、往々飽食貪飲
シテ、夭折ヲ免レザル者アルハ、何ゾヤ、抑幼ヨリ
放肆ニ生長シ、口腹ノ慾ヲ抑フルコト不能ハ、

三因ル、人若シ飲用ヲ節セズシテ身體ヲ傷害ス
ルトキハ、無心ノ草木ニモ耻ツルコト夥シ、故ニ
人々能ク、食規ヲ謹守シテ、完備ノ生機ヲ保續シ
充全ノ健康ヲ求ムベシ

第九回

植物ノ根ハ、液汁ヲ吸収シテ、莖幹ヲ養ヒ、又地中
ニ穿入シテ、之ヲ維持シ、曾テ傾斜
ノ患無ク、ラシム、故ニ萌芽初生ノ
時ニハ、細鬚状ニ爲シテ、地下ニ向
ヒ、莖幹稍長大ナルニ從ヒ、根モ亦



槭樹ノ根

次第ニ増加延蔓シ、全體ノ支持ニ適スルニ至ル
今茲ニ槭樹ノ根ヲ示ス、凡百ノ樹木、及ビ多般ノ
草根ハ、皆此類ナリ、之ヲ通常ノ形トス

其他異常ノ形態ヲ具セル草根ハ、種アリ

第一ヲ、平圓根トス、其形、圓大ニ

シテ、稍平扁ナルモノヲ云フ、燕
菜ノ類ナリ

第二ヲ、圓錐根トス、其形、圓長ニ

シテ、端尾稍尖リ、恰モ錐ノ如キ
ヲ云フ、胡蘿蔔ノ類ナリ

燕菜ノ根



胡蘿蔔ノ根



第三ヲ、紡錘形トス、其形、圓ニシテ頭尾共ニ稍尖リタルヲ云フ、
菘菜、蘿蔔ノ類ナリ

第四ヲ、塊根トス、其根ハ、蔓ノ如クニシテ、地中ニ播リ、所々ニ塊球ヲ、生ズルモノヲ云フ、馬鈴薯、甘薯ノ類ナリ

第五ヲ、集合塊根トス、莖ノ直下ニ數個ノ塊球ヲ、生ズルモノヲ云フ、天門冬ノ類ナリ

菘菜



馬鈴薯



天門冬



第六ヲ、球根トス、莖ノ直下ニ、球ヲ生ズルモノヲ云フ、水仙、番紅花ノ類ナリ

第七ヲ、鱗根トス、此亦、球根ノ如クニシテ、其質片々鱗屑スルヲ云フ、百合ノ類ナリ

第八ヲ、匍匐根トス、其形、大ニシテ莖ノ如ク地中ヲ匍匐、蔓延シ、諸部ノ關節ヨリ、新草ヲ生ズルモノヲ云フ、香附子、蓮、薄荷ノ類

水仙

卷丹

香附子

蛇菖



ナリ此種ノ中ニ地面ヲ匍匐シ、諸所ニ新根ヲ生ズルモノアリ、蛇莓、石胡荽ノ類ナリ。此八種ノモノヲ從來根ト稱スレド、其實ハ根ニアラズ、地中ニ在ル莖幹ナリ、眞ノ根ハ關節ヨリ生ズル細鬚及ヒ卷丹、水仙等ノ球下ニ垂ル、細織ナリ、白茅ノ匍匐根、若シ其前頭ヲ地上ニ出ダストキハ、眞ノ莖幹ヲ爲スヲ以テ、其根ニ非ザルヲ知ルベシ。

茲ニ掲示セルハ植物學ノ大意ナリ、猶花葉ニ係レル綱目及ヒ各其用ニ應シタル種分等アリ、皆次編ニ示ス。

第十回

凡ソ植物ヲ生育スルハ、其發芽ノ時ヨリ、意ヲ注シテ培養シ、等閑ニ看過ス可カラズ、既ニ生長スルニ至テハ、寸分ヲ延フル毎ニ之ヲ維持シテ、放肆ノ蔓延ヲ防護ス可シ、日々愛養シテ忽ニセザルバ、枝幹意ニ隨テ曲直シ、曾テ辛勞ヲ覺ユルコト無ク、殊榮ノ草木ヲ得ベシ、然ルニ數年間棄置シテ之ヲ顧ミズ、既ニ長大ヲ致スニ及ヒ、頓ニ其枝幹ヲシテ、意ノ如ク爲サント欲スルモ、容易ニ曲直ス可カラズ、枝ヲ剪リ、幹ヲ曲ガ、意外ノ勞力

ヲ費ヤシ、多年ノ時日ヲ登ザルヲ得ズ、如之急ニ
 之ヲ矯揉スルトキハ却テ其性ヲ斷チ、動モスレ
 ハ凋枯セシムルコトアリ、是ニ由レバ萌生ノ時
 ヨリ維持看護シテ倦ムコト無ケレバ、勞苦最少
 ナクシテ、功績特ニ倍蓰セン、人生ノ兒ヲ養育ス
 ルモ亦之ノ異ナル所無シ、人生レテ父母ノ懷ヲ
 離ルニ至テハ、玩具等皆學問ノ一助タル物ヲ、
 撰テ之ニ賦與シ、妄漫ノ行ヲ禁シ、苟モ欺ク可カ
 ラズ、其已ニ就學ノ期ニ至レバ、學校ヘ入レ、勤勉
 怠ルコト無ク、日々ノ言語動作總テ忠信篤敬ヲ

首トシ、遊戯ニモ虚言ヲ戒ム可シ、夫レ人ノ成童
 タルトキ、善惡ノ慣習、尤性ト爲リ易シ、訓導懲誠
 ノ道方ニ、此時ヨリ切ナルハ無シ、凡ソ父兄タル
 者宜シク、面命躬行シテ、之カ模範トナリ、造次ニ
 モ疏暴ノ舉動ヲ視ヌ可カラズ、其德性ヲ啓キ、其
 邪心ヲ遏メ、子弟ヲシテ見聞日々ニ熟シ、知ラズ
 識ラズ、規矩ノ中ニ長セシム、之ヲ久ウスルトキ
 ハ、勞セズシテ、淳良端正ノ人ヲ得可シ、若シ幼稚
 ノ時誤テ放縱ニ生長セシムルトキハ、身規律ノ
 外ニ出テ、暴行願ル所ナシ、此時ニ至リ、急ニ其

ス乃父ノ愛養セル梨樹ヲ切斷セリ、既ニシテ
父之ヲ認メ、切斷セル者ヲ問フ、華盛頓初ハ知
ラズト爲シ、其非ヲ掩ヘリ、須臾ニシテ自ラ謂
フ、我何ゾ父ヲ欺ク事堪ヘシト、乃チ自首シテ
曰ク、兒敢テ父親ヲ欺ク事忍セズ、夫ハ梨樹ヲ
切斷スルモノハ兒ナリ、請フ其罪ヲ恕セヨト
父曰ク、汝百千株ノ梨樹ヲ切斷スルモ苟モ虚
言ヲ發セザレハ、我ハ乃チ之ヲ喜ブ、今汝ノ過
失小ナラズ、雖モ虚誕ヲ構ゼサルヲ以テ、姑
ク其罪ヲ赦ス、然レ非謹テ此一事ヲ記シ、自

今言行、後虚妄ニ渉ル可カラズト、長ズルニ及
テ、端正信義ノ人ト爲リ、數十年ノ間、刻苦力行
シテ、屈セズ、終ニ聯邦ヲシテ、英國ノ羈軛ヲ脱
シ、制令、其宜キヲ得テ、風俗敦厚ニ、治道文明ナ
ルハ、華盛頓ノ功ニ由ルモノナリ、今ニ至ルマ
テ、人々其淳行ヲ稱賛シ、德風ヲ欽慕セリ、嗚呼
世ノ父兄タル者宜シク、夙ニ茲ニ鑒ミルベシ、
第十一回
有脊類ノ第一種ヲ、哺乳動物トシ、第二種ヲ、鳥類
トス、皆卷五ニ於テ、之ヲ略説セリ、其第三種ヲ、匍

匍蟲トス、

此類ハ、氣中或ハ水中ニ生活シ、其血赤色ナレトモ、温ナラザル故ニ、冷血類ト謂フ皆卵生ナリ、總テ卵ヲ砂中ニ置キ、太陽ノ熱ニ由テ卵化ス、

匍蟲類



匍匐蟲ヲ分テ四種トス、第一ヲ龜屬トシ、第二ヲ鱷屬トス、蛇屬ノ類亦此中ニ在リ、第三ヲ蛇屬トシ、第四ヲ蛙屬トス、蠍、蜈蚣、魚、亦此種ニ屬ス、
匍匐類ノ骸骨ハ、温血類ト異ナ

ル所多シ、猶之川一致シタル、骨格アリ、雖ル、大率一二ノ集成分ヲ欠クモ、トス、
總テ此類ハ、蠍、蜈蚣、鯢魚類ノ外皆肺ヲ以テ、空氣ヲ呼吸スト雖、血液運行ノ装置ハ、哺乳獸ノ如ク充分ナラズ、心臟ハ只二室アリテ、共ニ一時ニ開閉シ、鮮血ト汚血トヲ混合シ、其一分ヲ肺ニ送り、一分ヲ全躰ニ送ル、故ニ匍匐蟲ノ尿管ハ、哺乳獸ノ如ク、新鮮ナル赤血ヲ盈ツルコト無シ、其肺ハ較小ニシテ、血ノ循環ハ、徐々ニ、又少量ノ空氣ヲ吸ヒ、或ハ無氣中ニ永ク、生活ヲ保續スルヲ得ル

モノナリ
冷血類ハ、血液運行ノ遲漫ナルト、腦ノ小ナルト
ニ從テ、精神甚ク鈍ニ、且其性總テ懶怠ナリ、然
レモ生活ノ力ハ、温血ノ者ヨリ極テ強シ、蝸蟻ノ
類ハ、心臓ヲ抽テ、躰ヨリ出タスモ、猶久シク鼓動
ス、龜ノ類ハ、其首ヲ刎ルモ、猶能ク運動ス、曾テ博
物士アリ、蛙ノ腦ヲ除キタル後、殆ト一日ノ生活
ヲ保スルコトヲ驗セリ、又寒地ニ於テハ、冬季ノ
間上中ニ蟄伏シテ、飲食ノ絶チ、殆ト眠ルガ如シ
ト雖モ、生機ハ依然トシテ、滅スルコトナシ

抑此ノ如キ、動物ノ性狀、慣習ヲ研究スルハ、人智
ヲ開達スルノ一助ニシテ、頗ル緊要ノ學科ナリ
殊ニ造化至妙ノ功用ヲ觀シニハ、其躰軀ノ成立
ト生活ノ模様ヲ、辨識セザル可カラズ
夫レ葡萄蟲ハ、多ク醜惡ノ態狀ニシテ、泥沼不潔
ノ地ニ生ジ、或ハ長身銜眼、怖ル可キノ體ヲ具シ、
石窟河海ノ中ニ住ス、是亦自然ノ妙用ニシテ、彼
等ノ爲ニ適應ノ地ヲ分與スルナリ、若シ鳴鳥ハ、
泥沼ノ中ニ棲シ、龜鱉花園ノ間ニ遊ハ、曾テ其
妙用アルヲ知ラズ、便チ鷺鷥ハ、村里ヲ去テ、深山

住シ、可憐ノ嘯鳥ハ、庭園ニ飛揚シ、獅豹ハ森林
 居リ、魚類ハ水中ニ生活ス、夫ノ蝸蟻類ハ、葉間
 走リ、龜屬ハ池沼ニ游泳スルニ至テ、最其所ヲ
 得タル者トス、總テ天地間ニ生ズルモノ、各其性
 從テ宜キヲ得サルハナシ、是ヲ以テ人生ハ高
 堂華屋ヲ營ミ、外ハ園圃ノ設アリ、以テ心目ヲ歡
 バシム、内ハ机榻裳帷ノ具アリ、以テ起臥ニ適シ
 シム、且盛夏ハ四窓ヲ開キテ、好風ヲ通シ、隆冬ハ
 火熱ヲ資テ、房室ヲ煖メ、寒温適度ノ候ヲ占ム、是
 萬物ノ最高階ニ位スル所以ナリ、若シ誤ラ終身

貧窶ノ人トナリ、出處其身ニ適スルヲ得ザルト
 キハ、自然ノ妙用ニ悖ルモノト謂フ可シ、

第十、二回

龜屬ハ池沼或ハ海中ニ棲ニ其性懶惰ニシテ運
 動亦迅速ナラズ、精神モ極テ痴鈍ナリ、此類ハ亦
 有脊類ノ中ニ屬スト雖也、軀軀全ク兩殼ノ間ニ
 在リテ、柔軟動物ノ如ク、軀中ニ一骨ヲ有セズ、然
 レル之ヲ有脊類トナスハ、其脊骨軀外ニ在テ延
 長シ相連テ一枚トナリ、甲被ヲ爲シ、胸骨亦腹下
 ニ出テ、胸殼ヲ爲ス故ナリ、頭尾ノ骨及ヒ四肢

内面ヨリ
龜甲ヲ見
タル圖



ノ關節皆脊骨ヨリ分岐シテ、以テ其骨格ヲ全備ス、今其甲ヲ体ヨリ離間シ、内面ヨリ之ヲ見レハ、精シク其脊骨タルヲ知ル可シ、龜類若シ此甲殼無キトキハ他物ノ爲メ、容易ニ潰破サル、ヲ免レズ、故ニ襲敵ニ遇フトキハ、頭尾四肢ヲ縮メテ、其甲中ニ藏レ、以テ其身ヲ防守スルヲ得ルナリ、

龜屬ヲ大別シテ、河沼龜ト、海龜ト二種トス、河沼龜ハ、水龜鼈ノ類ナリ、皆河沼中ニ住シ、時々陸

地ニ歩行シ、小蟲或ハ菓實ヲ採テ食トス、其肉ハ甚ク美味ナルヲ以テ、人多ク之ヲ食ス、

海龜ハ、蟻龜、瑤瑁ノ類ナリ、此類ハ四肢ノ皮異常ニ延長シ、指頭ヲ蓋フニ至ルヲ以テ、河沼龜ト大ニ異ナリトス、皆暖地ノ海中ニ棲ニ巧ニ水ヲ游泳ス、然レ陸地ニ於テハ、歩行極テ拙迂ナリ、蟻龜ハ人之ヲ捕ヘテ、其肉ヲ食ス、最厚味トス、其印度地方ニ



産スルモノ、大ナルハ、鯨ノ長、四尺ニ至リ、秤量
 三四八、一當ルト云フ、
 瑤瑁ハ、多ク印度ノ多嶋海ニ産ス、其上顎曲尖ニ
 シテ鷹嘴ノ如シ、甲殼ハ總テ十三葉アリ、互ニ鱗
 接シテ屋瓦ノ如シ、透明ニシテ頗ル艶麗ナリ、人
 之ヲ用キテ器物服飾トス、
 海龜ノ最大ナルモノヲ龜ト云フ多ク大西洋ニ
 産ス、其長、五尺ニ踰エ、重一千二百斤ニ至ルモノ
 アリ、水中ヲ游行スルコト甚ク迅捷ナリ、稀ニハ
 水面上浮ビ、眠ルガ如ク多時運動セザルコトアリ

リ、此時ニ於テ、漁夫容易ニ捕ヘ得ルト云フ、

第十三回

鯨屬ハ、鱈魚、蜥蜴、守宮、鼈龍ノ類ナリ
 鯨魚ハ、熱帶地方ノ河中ニ住ス、軀幹長大、殆ト二
 丈ニ過ギ、全体ニ硬鱗アリ、口嘴ノ長、三四尺ニシ
 テ兩邊ニ鋸齒アリ、下顎ハ固著シテ動かズ、唯上
 顎ヲ運動シテ、物ヲ嚙噬ス、其性暴惡、好テ生物ヲ
 屠食ス、亞弗利加、印度ニ於テハ、薄暮、河岸ニ潜居
 シ、小獸或ハ旅人ノ通過ヲ窺ヒ、不意ニ起テ之ヲ
 水中ニ引キ、屠殺生食ス、其顎多力ニシテ、一度嚙

著スレハ、數千斤ヲ加フルモ容易ニ之ヲ開クコト能ハズ、此獸ハ肺臟ヲ以テ、空氣ヲ呼吸スト雖モ能ク水中ニ潜伏スルコト、一時半ニ堪フ、陸地ニ在テハ、通例怯憶ニシテ、人聲ヲ聞ケハ、忽チ逃レテ水中ニ入ル、牝鱷ハ性、甚ダ兒ヲ愛ス其卵ヲ生ズルニ方テハ、地ヲ掘テ圓孔ヲ作り、其中數層ニ卵ヲ積ミ上



砂ヲ以テ、之ヲ覆ヒ、時々其辺傍ニ來テ、之ヲ防護ス、既ニ卵化スルノ期ニ至レバ、土ニ撥テ幼兒ヲ出タシ導テ水中ニ入ル、猶生長ニ至ルマテハ、愛顧追隨シテ去ラズ、牡鱷ハ却テ慈愛ノ情無ク、牝鱷ノ間ヲ窺ヒ、動モスレバ、幼兒ヲ食スルコトアリ、蜥蜴ハ、小ナル匍匐蟲ニシテ運動極テ迅速ナリ、熱國ニハ、種類甚ダ多ク、且軀ノ長、三四尺ニ至ルモノアリ、然レモ温带ニハ、二三種ニ過ヤズ、冬日土中ニ蟄伏スルノ地ハ、一尺ニ至ルモノ稀ナ

蜥蜴



守宮

リ、此蟲ハ生活ノ力甚ダ強キヲ以テ、尾端ヲ切斷スレバ、生機猶存シ、多時ノ間、轉蹶飛躍ス、守宮ハ、古屋壁間ニ逍遙シ、小羽蟲或ハ蜘蛛ヲ食トス、其指頭恰モ吸球ノ如キヲ以テ、能ク倒ニ地平ノ面ヲ走行シテ、落ツルコト無シ、蜥蜴ノ屬ニカクレオント名ツクル者アリ、長身細尾ニシテ、一尺四寸ニ及ブ、此蟲一種ノ奇性アリテ、能ク躰色ヲ變化ス、元來蒼白ヲ本色トシ、是

カクレオンノ圖



ヨリ白緑トナリ、又黄色ニ變ジ、或ハ赭赤色トナリ、又深紺色ニ化シ、殆ト黒色ト爲ルコトアリ、此動物ハ、運歩甚ダ遅漫ニシテ、一二時ノ間、一所ニ止マルコトアリ、常ニ昆蟲ヲ採テ食トス、其舌ハ細長ニシテ、躰軀ヨリ長ク、端末ニ粘液ヲ滲シ、之ヲ以テ昆蟲ヲ帖シ引テ口ニ入ル、其出入最、迅捷ニシテ、人目ニ觸ル、コト無シ、故ニ往時ハ此動物ヲ、唯空氣ヲ資テ、生活スト云ヘリ

飛龍ハ多ク、印度地方ニ産ス、其大僅ニ四寸ニ過

飛龍



ギズ、兩脇下ニ翅狀ノ皮アリ、能ク縮張スルコト鳥翼ノ如ク自在ニ樹間ヲ飛翔シ昆虫ヲ捕ヘテ食トス

總テ蜥蜴ノ類ハ、人生ニ妨害ヲ爲スコト無シ、然レ其肉ヲ食ス、或ハ其蜜著ヲ受クルトキハ劇毒アリテ、人身ヲ傷害ス

第十四回 匍匐蟲ノ第三種ヲ蛇屬トス、蛇、蝮、蟻ノ類ナリ

此種ハ皆長身小頭皆脊ニ細鱗アリ、腹部ハ半輪狀ナル、無數ノ殼皮鱗接シ、逐次ニ閃動シテ、運動ヲ助ク、故ニ手足鱗翼ノ類無シト雖モ、能ク地上ヲ走行シ、或ハ樹ヲ攀ダ、壁ニ登リ、又水中ヲ游泳



シテ、進退自在ナリ、多ク昆虫卵ヲ食ス、皆牙端ニ劇毒ヲ稟有ス、動物之ガ爲ニ咬嚙サル、トキハ恐ル可キノ害アリ、蝮ハ軀幹蛇ヨリ、短小ニシテ、腹ノ殼皮ハ赭赤色ナリ、叢林ノ裏

ニ棲息ス、牙端ノ毒ハ尋常蛇ヨリ劇シ
 温帶以外ニ於テ、冬日土中ニ蟄伏スルノ地ニハ
 蛇ノ類僅ニ十餘種ニ過ギズ、躰軀漸ク三四尺ヨ
 リ六七尺ニ至ル、其色種々ニシテ青色、或ハ丹赤
 又黒色、或ハ班條ノモノアリ
 然レモ、二至線以内ノ地方ニハ、種屬極テ多クシ
 テ、三百六十種ニ踰ニ、其中最大ナルモノヲ巨蟒
 ト云フ、亞米利加熱帶ノ地ニ多シ、性猛惡好テ動
 物ヲ生食ス、其軀幹ニ丈四五尺ニ至ルモノ莫ク、能
 ク牛馬ヲ捕フルト云フ、此蛇ノ食ヲ求ムルキ



巨蟒牛ヲ捕ルル圖

總テ蛇屬ハ肉食ヲ爲シ、生長運漫ニシテ、生命ヲ
 保續スルコト最永シ、呼吸至テ緩徐ニ、且無氣内
 ニ生活スルコト他ノ獸類ヨリ長ク、又飲食ヲ絶

ハ、河岸又路傍ニ伏シ、鎮止
 シテ身ヲ草間ニ潜メ、他獸
 ノ通過ヲ窺ヒ、其已ニ近
 クニ及ビ我躰ヲ以テ急
 之ヲ捲キ、漸ク緊搾シテ、疲
 困ニ至ラシメ、後徐々ニ之
 ヲ食ス

第十五回

手テ、久時生活スルヲ、得ルモノナリ、又、
 之ニ屬ス、之ヲ水陸兩生ノ者トス、故ニ此種ハ、
 匍蟲ト、魚類ノ中間ニ位ス、殊ニ蝶鰻、鯪魚ハ水中
 生活シテ、陸地ニ出デザルニ恰モ魚ノ如ク
 蝦蟆、蟾蜍ノ類ハ、池沼、水田、水中ニ棲息
 ス、其初ヲ蝌蚪ト云、能ク水中ニ遊
 泳シ、口鰓ヲ以テ、水ヲ吞吐シ、其生
 保、此時水ヲ排シ、故ニ忽チ死亡ス



ルハ、魚類ニ異、ナラズ、然レモ生長スルニ從ヒ
 後足ヲ生シ、又前足ヲ生シ、其尾次第ニ短縮シテ、
 終ニ消滅スルニ及ビ、前ニ水ヲ吞吐シタル口鰓
 ノ變、之ヲ空氣ヲ呼吸スルノ肺トナリ、陸地ヲ逃
 躍、匍行ス、此時ニ至リ、久シク水中ニ沈没スレバ、
 生ヲ保ツコト能ハズ
 蝶鰻ハ、軀軀三四寸ノ大アリ、黒脊赤腹ナリ、鯪魚
 ハ、三尺余ニ至ルモノアリ、暗黒ノ斑文アリ、背脊
 ニ疣狀ノ肉隆起シ、其頂上ヨリ粘液ヲ沫出ス、捕
 獲ニ遇フトキハ、之ヲ以テ、滑脱ヲ助ク、共ニ醜惡

學語... 卷之六... 雜書



ヨリ、四肢アリテ、自在ニ水中ヲ歩行ス、
蛙屬ハ、其性較温和ニシテ、又曾テ妨害無キノミ
ナラズ、蚊蠅ヲ狩リ、或ハ呼聲ノ幽情ヲ慰スル等
多少人生ハ益ヲ爲ヒリ、然レモ其軀ノ奇美ナラ

ノ態狀ナリ、此類モ亦水中ニ
獅化シ、口鰓ヲ以テ、始終水ヲ
吞吐シ、其生ヲ保ス、又陸地ニ
出ヅルトキハ、其口鰓直ニ空
氣ヲ呼吸ス、故ニ水陸兩地ニ
生活スルモノナリ、孳生ノ初

ナルヲ以テ、恣ニ傷害ヲ加フルコト勿レ、若シ此
心ヲ抑ヘズシテ、習癖既ニ恒ト爲ルニ至テハ、人
ノ賤陋ナルヲ見テ、之ヲ蔑如シ、驕放不遜、或ハ慈
善ノ心ヲ欠キ終ニ暴惡無道ノ人トナルベケン
ヤ、

具賣本 卷之六 三 希真書

